『たっち』は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

立川市教育だより
たっち

●今号の主な内容
2面 … 平成31年度教育委員会の主要な事業
3面 … 若葉台小学校新校舎の実施設計が完成しました／閲蔵Ⅱがますます便利に！／学校閉庁日のお知らせ
4面 … 『特別支援教室プラス』が始まりました／立川市の歴史と文化財

編集・発行／立川市教育委員会
〒190-8666　立川市泉町1156-9
☎042(523)2111(市役所代表)
立川市ホームページ
https://www.city.tachikawa.lg.jp/

6.10
第39号
令和元年(2019年)
年3回発行

たっちの発行は年3回です。次号の発行は令和元年11月10日です。

令和元年はコミュニティ・スクール元年！

目指せ！地域とともにある学校づくり

今年度から、立川市立の全ての小・中学校でコミュニティ・スクールが始まります。コミュニティ・スクールとは、小・中学校に学校運営協議会を設置し、地域の皆さんに学校経営に参画していただく取組です。この取組は、学校教育の充実に向けて、地域が学校・子どもたちを応援・支援するだけでなく、学校も地域の拠点として連携・協働し、地域の活性化にも寄与することを目的としています。

平成30年度から、立川第五中学校区、立川第八中学校区で先行実施しており、学校教育の充実や地域の活性化に結びつくなどの成果があがっています。

問指導課・内線2499

コミュニティ・スクールで地域も学校も元気に！

学校の引き渡し訓練を、小学校だけじゃなく中学校や地域の人と一緒にするんだよ。
だから、本当に困ったときや災害が起きたときに近所の人の顔がわかっているから、安心できるんだ。

小学生も中学生も私たち地域の人も、朝決まった時間に、みんなであいさつ運動をしています。進んであいさつできる子が増えて明るい地域になってきました。

私は中学生だけど、地域の小学校の運動会のお手伝いをしました。先生たちが助かると言ってくれて嬉しかったです。自分にとっても良い経験になりました。

中学生サポーター

立川第八中学校 ＝ 新生小学校運動会に参加

立川第八中学校 ＝ 小・中合同で引き渡し訓練

立川第五中学校 ＝『砂川楽』で地域を体験学習

立川第五中学校 ＝ 自治会と一緒に取組む防災訓練

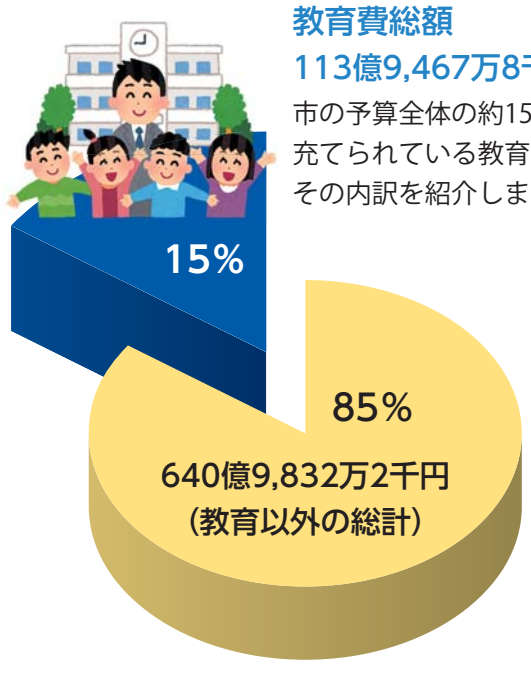
立川市民科の充実

まちを知り、まちと関わり、まちに貢献する体験的学習を通して、まちの担い手としての立川市民を育成するため、市立小・中学校では「立川市民科」を教育課程に位置付け、中学校区ごとに小・中学校が連携して推進しています。コミュニティ・スクールが始まることにより、それぞれの地域の特性を生かした、「立川市民科」の教育のさらなる充実が期待できます。

平成31年度

教育委員会の主要な事業

問教育総務課・2464、2465



教育費総額
113億9,467万8千円
市の予算全体の約15%が充てられている教育費。その内訳を紹介します。

立川市の一般会計予算額
754億9,300万円

学校施設の整備

●小学校施設改修事業
二小・大山小の便所改修工事を実施します。また、十小・松中小・柏小・若葉台小のブロック塀等改修工事を実施します。

●中学校施設改修事業
一中・二中・三中の防犯カメラシステム改修工事を実施します。五中・六中・七中・八中・九中の便所改修工事を実施します。四中・五中・八中のブロック塀等改修工事を実施します。四中・五中・六中・七中・八中・九中の体育館照明設備改修工事を実施します。

●保全計画に基づく学校施設改修事業
保全計画に基づき、第五小学校体育館、第七小学校校舎及び体育館（1年目）、南砂小学校校舎（2年目）の大規模改修工事を実施します。また、第一中学校のトイレ及び空調等の改修工事を実施します。

●小学校統合建替事業
「けやき台小学校と若葉小学校の統合方針」等に基づき、仮設校舎リース、若葉台小学校新校舎の建設工事及び工事監理委託を実施します。

学校・家庭・地域の連携による教育力向上

●全小中学校への学校運営協議会の設置
コミュニティ・スクール導入に伴い、全小中学校に学校運営協議会を設置し、地域との協働による学校経営を推進します。

●地域学校協働本部事業
全小中学校において、地域と学校が協働して立川市民科等の各種事業をさらに推進します。

●学校支援ボランティア事業
国庫補助金「地域学校協働活動推進事業」を活用し、「学社一体」の理念を実践するために、地域人材の知見を活かして地域学校コーディネーターを市内全小中学校に配置しています。また、希望する学校に学校支援ボランティアを派遣します。

学校教育の充実

●スタディ・アシスト事業
塾等の民間事業者と連携し、進学を視野に入れた思考力・判断力・表現力を育てる学習教室を、中学校3年生を対象に実施します。

●外国語指導助手（ALT）派遣
令和2年度からの小学校英語教育の教科化に向け外国語活動の授業時数を段階的に増やします。また、外国語授業数増に対応するため、外国語指導助手（ALT）の派遣を拡充します。

保健衛生事業

●学校災害賠償補償保険の充実
学校災害賠償補償保険の契約内容を見直し、賠償責任保険に加え補償保険の充実を図ります。

教育支援と教育環境の充実

●ICT支援員の配置
タブレット端末等ICT機器のさらなる活用及びICT教育の充実を図るため、教員のサポートを行うICT支援員を全小中学校に配置します。

●小学校特別支援教室教員用タブレット端末の整備
全小学校の特別支援教室「キラリ」に教員用タブレット端末を配備し、特別支援教育の充実を図ります。

●中学校特別支援教室の順次導入
発達障害のある生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、中学校2校に特別支援教室を先行設置し、指導を開始します。併せて、令和2年度に導入予定の5校の環境整備や理解啓発に取組みます。

●「サポートファイル」の導入
子どものライフステージを通じた、途切れのない相談・支援の実現に向け、「サポートファイル」を導入し、希望する保護者に配布します。活用実績を踏まえ、より保護者の負担を軽減するツールとなるよう改良を進めます。

子どもの安全安心事務

●緑町在住十小新1年生児童の見守り事業
平成30年度に緑町が第十小学校の学区域へ変更となりました。通学路等安全対策検討委員会の協議を踏まえた安全対策として、交通ルール指導員を引き続き配置し児童の見守りを行います。

学校給食の充実

●食教育支援指導事業
栄養士等が中心となり、小中学校、農業団体等と連携し、学校給食等を活用した食教育の支援指導を進めます。

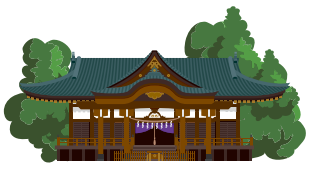
●新学校給食共同調理場整備運営事業
新学校給食共同調理場整備運営事業化調査等を行い、新設する学校給食共同調理場の事業手法の検討、供用開始までのスケジュール作成、施設整備計画策定を行います。

生涯学習社会の実現

●市民交流大学運営事業
市民主体の組織である「たちかわ市民交流大学市民推進委員会」が実施する市民企画講座事業を支援しています。

文化芸術の振興

●文化財保護事業
文化財保護のため平成29年度から3か年で実施中の市指定有形文化財「阿豆佐味天神社本殿」の保存修理事業に補助金を交付しています。また、市内の埋蔵文化財（遺跡）については、展示活動により周知等を図るほか、法令に基づき開発事業者等と調整して、発掘調査を実施しています。



教員の働き方改革事業

●「スクール・サポート・スタッフ」の配置
教員の業務負担を軽減するために、業務支援を行う「スクール・サポート・スタッフ」を増配置します。

●中学校部活動指導員の配置
教員に代わり部活動の技術指導や大会参加の引率等を行う中学校部活動指導員を増配置します。

●出退勤管理システムの導入
教員の出退勤時刻を把握するため、小中学校にタイムレコーダー等の出退勤管理システムを導入します。

創立記念式典補助

●一小及び南砂小の創立記念式典補助金
第一小学校の開校150周年記念式典と、南砂小学校の開校50周年記念式典に補助金を交付します。

教育に関係する各計画の策定

●第3次学校教育振興基本計画策定事業

●第3次特別支援教育実施計画策定事業
小中学校PTA連合会役員や学識経験者、関係団体、公募市民などからなる計画検討委員会を設置し、上位計画や関連する個別計画等と整合を図りながら、計画の策定を進めます。

●第6次生涯学習推進計画策定事業
平成30年度に実施した市民アンケートをもとに、生涯学習推進審議会の議論を経て、計画の策定を進めます。

●第3次図書館基本計画及び第4次子ども読書活動推進計画策定事業
学識経験者や地域文庫関係者、公募市民からなる図書館協議会の議論を経て、計画の策定を進めます。

朝日新聞データベース 聞蔵Ⅱ がますます便利に！

朝日新聞データベース「聞蔵（きくぞう）Ⅱ」では、これまではおおむね平成12（2000）年以降の「全国の地域面」（地方版）をご覧いただけましたが、昭和10（1935）年以降の全国の地域面も見られる機能を追加し、さらに便利になりました。故郷の昔の出来事や地域の歴史を調べたい方、ぜひご利用ください。図書館全館で閲覧が可能です。なお、印刷をご希望の場合は中央図書館のみとなります。

問中央図書館☎（528）6800

学校閉庁日のお知らせ

立川市では教員の働き方改革の一環として、夏季休業期間中、市内全小中学校に「学校閉庁日」を設定します。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

なお、児童・生徒の生命に関すること等、緊急の事態が起きた場合は、各学校へご連絡ください。学校管理員が管理職に連絡する等の対応をします。

学校閉庁日

令和元年8月13日から15日までの3日間

問教育総務課・内線2464、2465

教育委員の活動を紹介します

教育委員の平成31年１月から４月までの活動は**下表**の通りです。またその他に入学式・卒業式、道徳授業地区公開講座、各種研修会などへ参加しています。

活動実績（平成31年１月～４月）

１月10日	第１回教育委員会定例会
	第３回立川市総合教育会議
１月14日	成人を祝うつどい
１月24日	第２回教育委員会定例会
２月１日	学校訪問（柏小学校）
２月８日	東京都市町村教育委員会連合会研修会
２月９日	若葉台小開校記念式典
２月13日	立川市立中学校教育研究会研究発表会
２月14日	第３回教育委員会定例会
２月16日	立川教育フォーラム
２月21日	学校訪問（若葉台小学校）
２月25日	第４回教育委員会定例会
３月５日	教育委員会研修
３月７日	第５回教育委員会定例会
	立川市学校保健会・健康努力児童・生徒表彰式
３月19日	第６回教育委員会定例会
４月１日	教員辞令伝達式
４月11日	第７回教育委員会定例会
４月16日	平成31年度教育施策連絡協議会
４月17日	立川市立小学校教育研究会総会
４月25日	第８回教育委員会定例会

問教育総務課・内線2464、2465

若葉台

若葉台小学校新校舎の実施設計が完成しました

平成28年度に策定した「新校舎建設マスタープラン」に基づき、具体的な内容を設計に反映した実施設計が平成31（2019）年２月に完成しました。

新校舎は、令和元（2019）年７月から建設工事を開始し、令和３（2021）年３月に完成する予定です。

また、若葉台小学校は、令和３年３月までは、旧若葉小学校の校舎を使用し、新校舎完成後の令和３年４月に新校舎に移転する予定です。

なお、実施設計の図面等は市ホームページ「若葉台小学校新校舎の実施設計に関する説明会を開催しました」に掲載しています。

説明会を開催

平成31年４月20日に若葉台小学校多目的室において、実施設計に関する説明会を開催しました。若葉台小学校の保護者や若葉町に在住の方など14人の方にご参加いただきました。

新校舎建設地（旧けやき台小学校跡地）を開放しました

旧けやき台小学校の桜につきましては、これまでの説明会では、できるだけ残していきたいと説明してまいりましたが、検討の結果、樹木自体が腐食しており危険であることや安全確保のためのブロック塀撤去工事に支障となることなどから、残念ながら伐採することになりました。

そこで、最後の満開の桜を観賞していただくため、平成31年３月29日と30日の２日間、旧けやき台小学校跡地を開放しました。

開放日には、若葉台小学校の児童や保護者、地域の方など２日間で約800人を超える方々にお越しいただきました。

なお、今後の新校舎建設工事の中で児童や地域の皆様にもご協力をいただき、敷地の東側に新たにソメイヨシノ等を植樹する予定です。

問教育総務課・内線2474

立川市役所（〒190-8666）立川市泉町1156-9 ☎（523）2111（代表） Fax（528）1204

平成31年４月から 市内中学校2校で『特別支援教室プラス』が始まりました

市では、発達障害によって社会性やコミュニケーション等に困難のある生徒が、個々の状態に応じた特別な指導を受けられるようにするため、小学校に続いて中学校においても特別支援教室を導入しました。

教室の愛称は「プラス」。学校生活にプラスアルファを提供できる場として、生徒を応援するプラスの役割として一人ひとりの可能性がもっと広がるようにとの願いを込めました。

特別支援教室では、生徒の在籍校に、指導を担当する教員が巡回して指導を行います。

初年度となる平成31年度は、立川第六中学校を拠点校とし、立川第九中学校へ教員が出向いて巡回指導を行っています。今後、令和３年４月までに全中学校に「プラス」を設置していく予定です。

生徒自身が安心して校内の「プラス」を利用し、学習上や生活上の困難さを軽減していけるよう取組んでいきます。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

立川第九中学校「プラス」の教室

●平成31年４月に導入する巡回グループ

拠点校	巡回校
立川六中	立川九中

●令和２年度以降の導入計画

令和２年度	立川三中、立川四中、立川五中、立川七中、立川八中
令和３年度	立川一中、立川二中

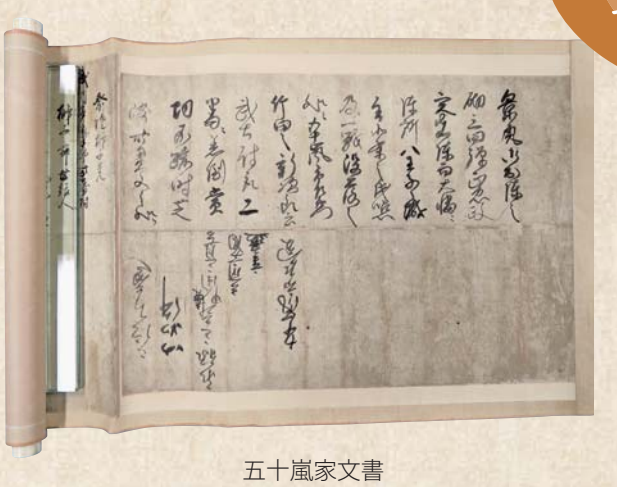
※特別支援教室が在籍校に導入されるまでの間は、引き続き学区の通級指導学級または拠点校の特別支援教室で指導を受けます。
なお、計画は令和元年５月現在のものであり、今後、変更になる場合があります。

『特別支援教室プラス』では、生徒によりそった個別指導や小集団での指導を行います。

問教育支援課☎(527)6171

立川市の歴史と文化財 39

寄贈された古文書



五十嵐家文書

歴史民俗資料館では、市民の方などからさまざまな資料を寄贈していただきます。〝資料〟と一口にいっても、当館の収集資料には、さまざまな形態があります。日常的に使用していた農具や生活用品、かつて家々を彩った雛人形や兜飾りなどの民俗資料、古文書などの歴史資料、市内の風景を写した写真資料、お祭りの映像や方言の音声なども、地域の大切な資料となります。今回は、平成30年度に当館へ寄贈された数多くの資料のなかから、歴史資料をひとつご紹介します。

右写真の古文書は、市内柴崎町在住の市民の方からご厚意により当館へ寄贈された資料です。寄贈時には、本紙が巻子に軸装され、桐箱に納められた状態で保管されていましたが、それ以前の状態がどのようなものであったのか、詳細は不明です。文書の形式でいえば、「折紙」といわれる書状の形式で、用紙を上下半分に折りたたんだ状態で書き始めるため、紙を開くと文字の上下が逆さになっています。

文書の日付は「永禄三年庚申閏三月七日」(永禄三年＝一五六〇年)と記されています。当時の立川市域は小田原北条氏の支配下にあり、上杉・長尾軍と北条軍が攻防を繰り広げた小田原城の戦いが始まる少し前の、戦乱の時代でした。文書の内容は、長尾景虎(のちの上杉謙信)の関東出陣に先んじて、三田弾正忠政定が先陣をきって八王子の大幡に陣を構えたため、「八王子之城主」北条氏照が攻撃を加えたところ没落、そこへ敵方の武士を討ち取った五十嵐市左衛門が合流、その手柄に対し「芝崎」(現在の柴崎町あたり)のところに所領を与える、というものです。文書の差出人である北条氏照の家臣・立川重良が、五十嵐市左衛門の功を労って所領の給付を当人に伝えた奉書であり、寄贈者の家に代々大切に受け継がれてきた資料です。

この史料に関しては、古くからその存在が知られており、江戸時代の文化・文政期(一八〇〇年代初頭)に編まれた『新編武蔵風土記稿巻之一　百十九』所収の「多磨郡之三十一　拝島領」、柴崎村の項にも記されています(項の名称中「磨」は原文のまま)。専門家によるこの史料への評価は、史料批判に適う同時代の史料も少ないことから、疑問点や検討すべき点が多いとされていますが、江戸時代以前の立川市域の様子を伝える数少ない古文書のひとつということは確かであり、また、当時の立川氏の動向と多摩の混然とした権力構造がうかがえる、たいへん貴重な資料といえます。

歴史民俗資料館では、6月11日(火)から7月7日(日)まで、この古文書資料のほか、平成30年度に寄贈された資料の一部を公開する「新収蔵品展」を開催します。資料の原物を見られるこの機会に、多くの皆さまのご来館をお待ちしています。

問歴史民俗資料館(生涯学習推進センター文化財係)☎(525)0860